

原発事故後の福島のサウンドスケープに何を聞くか

永 幡 幸 司 研 究 室

はじめに

私たちが聴く音の世界、それがサウンドスケープだ。空気の振動である音は、私たちの行動に伴って発生する。それゆえ、サウンドスケープは、私たちの行動の集積である、生活の象徴でもある。

原発事故以降、福島で聞こえてくる音の世界は変化し続けている。この変化は、一体、何を意味しているのだろうか。

原発事故後の福島のサウンドスケープ

小鳥の森の場合

<2011年5月>

新緑の季節、小鳥たちは例年どおり、その鳴き声で春を謳歌していた。しかし、そこに、人の声はなかった。



http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~nagahata/fsp_311/kotorinomori_110501/index.html

<2012年5月>

1年後の新緑の季節、小鳥たちはいつもどおりに新緑を讃える歌を歌い、人は沈黙を続けた。



http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~nagahata/fsp_311/kotorinomori_120526/index.html

レイチェル・カーソンは『沈黙の春』の中で、化学物質に汚染され春になっても鳥が鳴かない世界を描いた。しかし、原発事故により放射性物質で汚染された福島で実際に沈黙したのは、鳥ではなく人間だった。

福島大学の場合

<2012年3月>

原発事故から1年が過ぎ、福島大学では大規模な除染が行われた。モニタリングポストの周りの除染は、特に入念だ。



http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~nagahata/fsp_311/fukudai_120322/index.html

<2015年2月>

キャンパス内には、原発事故から4年が過ぎようとする頃になって、ようやく除染が行われた場所も少くない。



http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~nagahata/fsp_311/fukudai_150224-2/index.html

WHOによれば、健康とは「完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」という。だとすると、このようなサウンドスケープを織り成す生活を送ることが、健康な生活と言えるであろうか？

福島サウンドスケープ

原発事故後の福島の音環境の変化の様子の記録は、「福島サウンドスケープ」と題する以下のURLで公開中である。

http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~nagahata/fsp_311/index.html

(c) Koji Nagahata 2011-2015.